

寒川セツルメント史出版プロジェクト 編

寒川セツルメント史～千葉における戦後学生セツルメント運動

本の泉社 定価 2,500円(税別)

紹介者：鈴木 信夫(昭47)

「僕は、社会医学研究会(社医研)での活動経験や結核の罹患歴などから、千葉県医師会長の時期に、医学・医療に関わる市民の学習兼遊び場の建設企画を政財界に働きかけたが、残念ながら、果たせなかったんだよ・・・」これは、故渡辺武あのはな同窓会会長(昭27)と御自宅にて親しく語りあえた際に渡された伝言でした。実は、あのはな同窓会の会報における本書の紹介を依頼される書状を細山(入江)公子先生(昭45)よりご郵送いただいた際に、思い出されたのです。

そもそも、タイトルの“寒川”の“さ”や、“セツルメント”の“セ”も知らぬ門外漢が、果たして、紹介原稿を書けるのか悩んだのです。確かに、半世紀以上、会報発行に携わってきた事から、これまで、複数の著作物について、本会報に素人論評を綴って来ましたが。

そこで、本書の目次を見ました。すると、社医研が記載されているではないですか。本書への注目度は高まったのです。社医研については、川鉄公害などで、やはり、お世話になった、故吉田亮 元公衆衛生学教授・千葉大学学長 より個人的にお聞きしていましたので、なおさらです。さらに、あのはな同窓会賞受賞者である北川定謙 先生(昭31)や知己の先生方のお名前が編集協力者に記載されていることから、めくるめく本書に引き込まれていったのです。

では、寒川セツルメントは社医研とどのような関連性が有るか？です。そもそも、寒川とは、何か？あるいは、セツルメントとは？ 本書は、懇切丁寧に解説してくれております。本書を手に取りましたら、まずは、冒頭に掲載されてある千葉市内の地図と第1章から、紐解くと良いでしょう。

ところで、本書は何故出版されたか？です。あとがきが適切な解説をしてくれております。すると、歴史の“史”をタイトルにかざしてある事も頷けられるのです。さあ、それから、”史”たる記述の第2章から第4章を一気に読んで行くか、あるいは、第5章から精読始めるかです。圧巻、第5章は、寒川セツルメントに関わった方々による、セツルメントと私～卒業後の歩み～が記載されているのです。本書が単なるサークル記録集や歴史的資料の陳列棚では無いとの宣言がなされ、次世代へのメッセージともなっているのです。すると、中部大学教授 子安潤先生

による”はじめに”の記載意図が鮮明化するのです。

さて、最後に、少々、紹介者の演繹的読後感を一文；教育と研究、そして、アウトリーチ活動を三位一体とする大学にあっては、多様な人材の育成にどのように関われるかです。非常識の常識化、非科学の科学化、未知の既知化を責務とする学問の府としてです。特に、医学部にあっては、医師国家試験対応の単なる予備校化への変貌が懸念される昨今、一方、人間性を堅持する先頭に立つべき医師を養成する努力が喫緊の課題となっている AI 時代、本書が今後一役果たす事を願う次第です。また、本書が端緒となり、亥鼻キャンパスにおける諸種のサークルにおける活動史の編纂がなされる事も期待する次第です。